



Informatica® Cloud Application Integration
October 2023

アセットの管理

Informatica Cloud Application Integration アセットの管理
October 2023

© 著作権 Informatica LLC 1993, 2023

発行日: 2023-11-28

目次

序文	5
第 1 章: プロジェクトおよびアセットの管理	6
プロジェクト、フォルダ、およびアセットのコピー	9
フォルダとアセットの移動	10
プロジェクト、フォルダ、およびアセットの名前変更	11
プロジェクト、フォルダ、およびアセットの削除	12
タグ	13
タグの作成	13
タグの割り当て	14
タグの編集と削除	15
アセット依存関係	15
権限	16
権限のルールおよびガイドライン	18
権限の設定	18
第 2 章: ソース管理	20
ソース管理のアクション	20
ソース管理と Git リポジトリ	21
リポジトリアクセスの設定	22
ソース管理のプル	22
プロジェクトとフォルダのプル	23
オブジェクトのプル	23
オブジェクトのチェックアウトおよびチェックイン	24
オブジェクトのチェックアウト	24
オブジェクトのチェックイン	25
オブジェクトの削除	25
以前のバージョンに戻す	25
チェックアウトの取り消し	26
オブジェクトのリンク解除	26
複数のオブジェクトの操作	27
[エクスプローラ] ページのソース管理カラムの表示	27
ソース管理のベストプラクティス	28
第 3 章: アセットの移行	30
アセットのエクスポート	30
エクスポートファイル	31
アセットのエクスポート	32
アセットのインポート	33
アセットのインポート	34

インポート対象アセットのパブリッシュ.....	35
インポート後のタスク.....	35
インポートログおよびエクスポートログの表示.....	35
第4章：自分のプロセス.....	37
索引.....	39

序文

『アセットの管理』を使用して、フォルダやアセットを設定および整理する方法や、フォルダやアセットに対してその他のアクションを実行する方法を確認します。

第 1 章

プロジェクトおよびアセットの管理

【参照】 ページを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services プロジェクトとアセットを操作します。

【参照】 ページでのプロジェクトとアセットの検索

次のいずれかの方法を使用して、**【参照】** ページでプロジェクトとアセットを検索します。

- プロジェクトやフォルダで検索。すべてのプロジェクトを表示するか、または特定のプロジェクトを選択します。
- アセットタイプで検索。すべてのアセットを表示するか、または特定のタイプのアセットを表示します。
- タグで検索。特定のタグに関連付けられたアセットを表示します。
- プロジェクトまたはアセットを検索します。組織内のすべてのプロジェクト、フォルダ、およびアセットを検索するには、プロジェクトごとの **【エクスプローラ】** ページを表示して、**【検索】** ボックスに名前または説明を入力します。または、検索を絞り込むには、**【参照】** ページを **【すべてのアセット】** でフィルタし、特定のアセットタイプまたは特定のプロジェクトやフォルダを選択して、**【検索】** ボックスに名前または説明を入力します。
- 検索結果をソートします。**【名前】**、**【作成日】**、**【最終更新日】**、**【説明】**、または **【タイプ】** で **【参照】** ページをソートします。**【タイプ】** でソートすると、**【参照】** ページではアセットがアセットタイプ別にグループ化されます。アセットタイプはアルファベット順で表示されるわけではありません。

次の文字は # ? ' | { } " ^ & [] / \ ページで使用することはできません。

? ' | { } " ^ & [] / \

これらの文字を、プロジェクト、アセット、タグ名に使用しないでください。

【参照】 ページでのプロジェクト、フォルダ、アセットの詳細の表示

次の表に、**【参照】** ページで表示できるプロジェクト、フォルダ、アセットのプロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	プロジェクト、フォルダ、アセットの名前。
タイプ	オブジェクトのタイプ。プロジェクト、フォルダ、タスクフロー、マッピング、マップレットなどです。
更新日時	プロジェクト、フォルダ、アセットが最後に更新された日時。

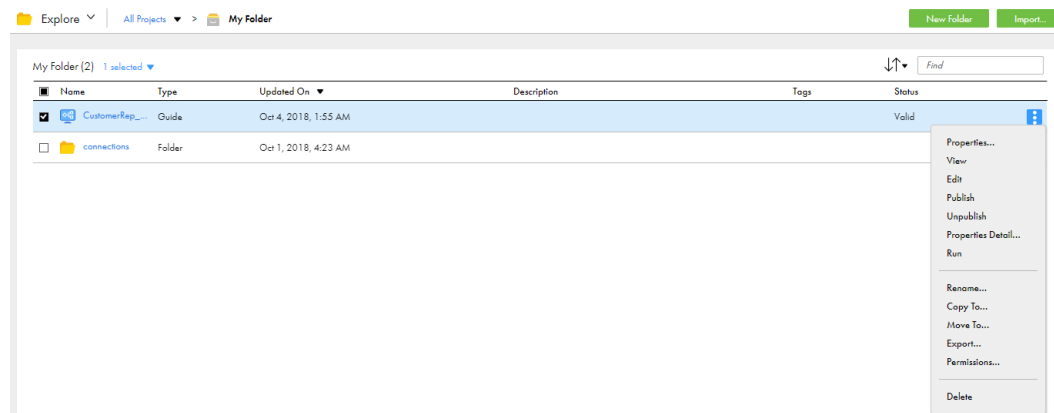
プロパティ	説明
更新者	プロジェクト、フォルダ、アセットを最後に更新したユーザーの名前。 このプロパティは、デフォルトでは表示されません。このプロパティを表示するには、ヘッダー行を右クリックして 【更新者】 を選択します。 このプロパティは、 【参照】 ページで 【すべてのタグ】 を選択した場合は使用できません。
作成日時	プロジェクト、フォルダ、アセットが作成された日時。 このプロパティは、デフォルトでは表示されません。このプロパティを表示するには、ヘッダー行を右クリックして 【作成日時】 を選択します。 このプロパティは、 【参照】 ページで 【すべてのタグ】 を選択した場合は使用できません。
作成者	プロジェクト、フォルダ、アセットを作成したユーザーの名前。 このプロパティは、デフォルトでは表示されません。このプロパティを表示するには、ヘッダー行を右クリックして 【作成者】 を選択します。 このプロパティは、 【参照】 ページで 【すべてのタグ】 を選択した場合は使用できません。
場所	プロジェクト、フォルダ、アセットがある場所。
説明	プロジェクト、フォルダ、アセットの説明。
タグ	アセットに割り当てられているタグ。
ステータス	アセットが有効かどうかを示します。 このプロパティには次のいずれかの値が表示されます。 - 有効。このアセットには検証エラーが含まれていません。 - 無効。このアセットには検証エラーが含まれています。
パブリッシュ済み	アセットがパブリッシュ済みかどうかを示します。 このプロパティは、 【アセットタイプ】 オプションを選択して 【参照】 ページを表示した場合に使用できます。 このプロパティは、デフォルトでは表示されません。このプロパティを表示するには、ヘッダー行を右クリックして 【パブリッシュ済み】 を選択します。 このプロパティには次のいずれかの値が表示されます。 - パブリッシュ済み - パブリッシュ解除済み - 古くなっている このプロパティは、パブリッシュできないアセットでは空白になります。例えば、プロセスオブジェクト、マッピング、マッピングタスクでは空白になります。
パブリッシュ日	アセットがパブリッシュされた日時。 このプロパティは、 【アセットタイプ】 オプションを選択して 【参照】 ページを表示した場合に使用できます。 このプロパティは、デフォルトでは表示されません。このプロパティを表示するには、ヘッダー行を右クリックして 【パブリッシュ日】 を選択します。 このプロパティは、パブリッシュできないアセットでは空白になります。例えば、プロセスオブジェクト、マッピング、マッピングタスクでは空白になります。

【参照】 ページでのプロジェクトとアセットの操作

【参照】 ページで、プロジェクトおよびアセットに対するアクションを実行します。

プロジェクトまたはアセットに対して実行できる操作を確認するには、プロジェクトまたはアセットを含む行で、**【アクション】** アイコンをクリックします。

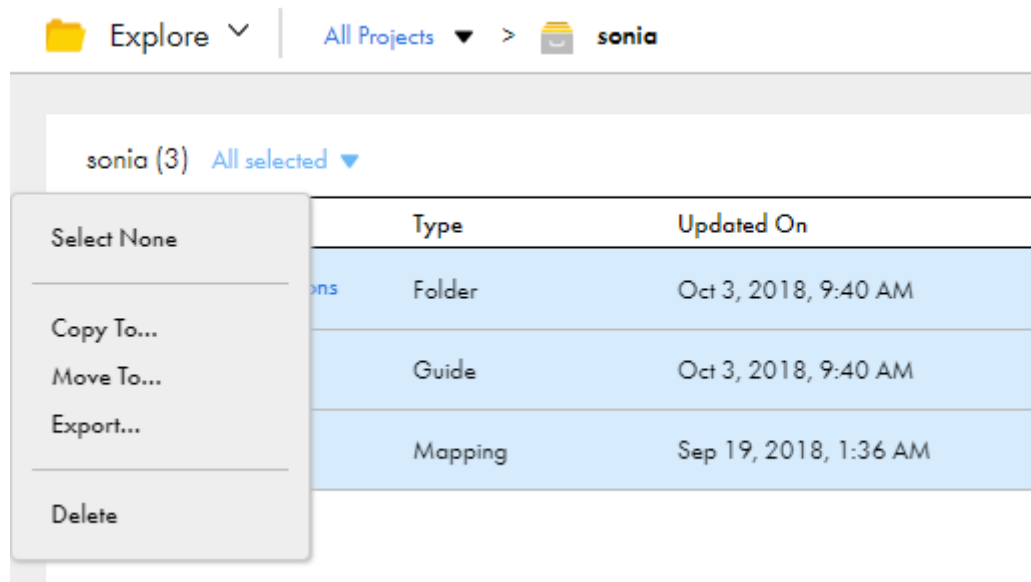
次の図は、[参照] ページの [アクション] アイコンを示します。



[アクション] メニューには、ユーザーロール特権および選択したアセットで指定した権限に基づいて実行できるアクションが一覧表示されます。例えば、ユーザーロールにタスクの表示と実行を行う権限を指定して、タスクの削除は行えないように指定できます。タスクの作成者によって設定された権限により、特定のタスクを実行する権限がない場合があります。

複数のオブジェクトに対してアクションを一度に実行するには、各オブジェクトの左側にあるチェックボックスをオンにして、選択メニューを使用してアクションを選びます。

次の図は、選択メニューを示します。



他の Informatica Intelligent Cloud Services のアセットの操作

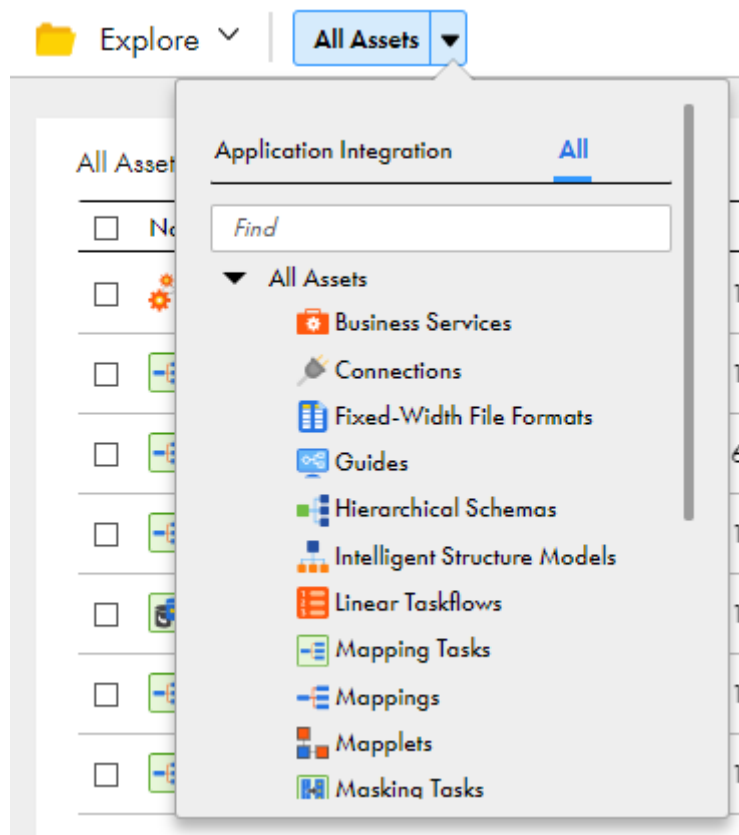
異なるサービスに属するアセットが組織内にある場合、それらを [参照] ページから表示できます。

デフォルトでは、アプリケーションの統合のアセットが表示されます。

他のサービスのアセットを表示するには、次の手順を実行します。

1. [参照] ページで、[参照] > [参照基準] > [アセットタイプ] の順に移動します。
2. [すべてのアセット] リストで、[すべて] を選択します。

次の図は、[すべてのアセット] リストの [すべて] タブを示します。



〔参照〕 ページからデータ統合アセットを実行すると、データ統合サービスが新しいウィンドウに表示されます。アセットは、読み取り専用モードで実行されます。

〔参照〕 ページでデータ統合アセットを選択すると、データ統合サービスが新しいウィンドウに表示されます。アセットは、編集可能モードで表示されます。

プロジェクト、フォルダ、およびアセットのコピー

〔エクスペローラ〕 ページでは、プロジェクト、フォルダ、およびアセットをコピーできます。テンプレートとして使用するプロジェクトをコピーすることも、バックアップコピーを作成することもできます。

オブジェクトをコピーする場合、Informatica Intelligent Cloud Services は次のインスタンスに子要素を保持します。

- プロジェクトをコピーすると、新しいプロジェクトには、元のプロジェクトにあったすべてのフォルダとアセットが含まれます。同様に、フォルダをコピーすると、新しいフォルダには、元のフォルダにあったすべてのアセットが含まれます。
- アセットまたはアセットを含むフォルダを別の場所にコピーすると、アセットは依存オブジェクトへの参照を保持します。

例えば、Customers プロジェクト内のフォルダに m_cust アセットと mt_ca_cust アセットが含まれているとします。mt_ca_cust アセットには m_cust アセットが必要です。mt_ca_cust アセットを Customers_ca_upsell project のフォルダにコピーしても、Customers_ca_upsell プロジェクトの mt_ca_cust アセットは Customers プロジェクトの m_cust アセットを引き続き参照します。

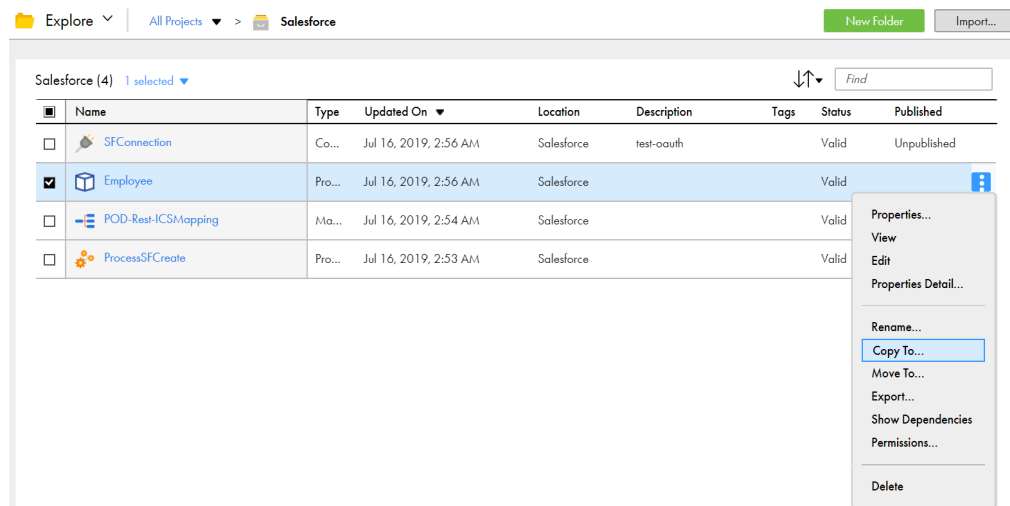
フォルダ内でアセットをコピーすると、両方のアセットを保持できます。同じ名前のアセットを含む別のフォルダにアセットをコピーする場合は、フォルダ内のアセットを上書きするか、または両方を保持できます。両方のアセットを保持する場合、Informatica Intelligent Cloud Services は新しいアセット名に「コピー x」を付加します。x は、コピーの連番です。

注: 重複するアセットとの名前の競合を避けるには、「コピー x」接尾辞の付いたアセットの名前を変更します。

スケジュール付きのアセットをコピーすると、そのスケジュールはコピーされたアセットから削除されます。

オブジェクトをコピーするには、次の手順を実行します。

1. **【参照】** ページで、コピーするオブジェクトに移動します。
2. コピーするオブジェクトが含まれる行で、**【アクション】** をクリックし、**【コピー先】** を選択します。



3. 新しい場所を参照し、**【選択】** をクリックします。

フォルダとアセットの移動

フォルダとアセットは、**【エクスプローラ】** ページで移動できます。

1. **【エクスプローラ】** ページで、移動するフォルダまたはアセットに移動します。
2. 組織がソース管理を使用している場合は、移動するフォルダまたはアセットをチェックアウトします。
フォルダを移動する場合は、フォルダとそれに含まれるアセットをチェックアウトします。

3. フォルダまたは単一のアセットを移動するには、フォルダまたはアセットを含む行で【アクション】をクリックして【移動先】を選択し、新しい場所を参照してから【選択】をクリックします。

Salesforce (4) 1 selected ▼

	Name	Type	Updated On ▼	Location	Description	Tags	Status	Published
<input type="checkbox"/>	SFConnection	Co...	Jul 16, 2019, 2:56 AM	Salesforce	test-oauth		Valid	Unpublished
<input checked="" type="checkbox"/>	Employee	Pro...	Jul 16, 2019, 2:56 AM	Salesforce			Valid	
<input type="checkbox"/>	POD-Rest-ICSMMapping	Ma...	Jul 16, 2019, 2:54 AM	Salesforce			Valid	
<input type="checkbox"/>	ProcessSFCreat	Pro...	Jul 16, 2019, 2:53 AM	Salesforce			Valid	

Properties...
View
Edit
Properties Detail...
Rename...
Copy To...
Move To...
Export...
Show Dependencies
Permissions...
Delete

プロジェクト、フォルダ、およびアセットの名前変更

使用するオブジェクトへの参照を保持したまま、プロジェクト、フォルダ、およびアセットの名前を変更できます。

例えば、mt_ResolveClientList という名前のアセットが m_RegionToMainList という名前のアセットを使用している場合、mt_ResolveClientList アセットの名前を mt_ClientList に変更することができ、そのアセットは引き続き m_RegToMainList アセットを参照します。

プロジェクト、フォルダ、アセット、またはタグの名前に次の文字を使用することはできません。

? ' | { } " ^ & [] / \

1. 【エクスプローラ】 ページで、名前を変更するオブジェクトに移動します。
2. 組織がソース管理を有効にしている場合は、名前を変更するオブジェクトをチェックアウトします。
3. アセットの名前を変更するには、【アクション】 をクリックし、【名前の変更】 を選択します。
4. プロジェクトまたはフォルダの名前を変更するには、プロジェクトまたはフォルダが含まれる行で、【アクション】 をクリックし、【プロパティ】 を選択します。
5. 新しい名前を入力し、【保存】 をクリックします。
名前に特殊文字を使用したり、同じフォルダ内の別のオブジェクトと同じ名前を使用したりすることはできません。
6. オブジェクトがチェックアウトされている場合は、オブジェクトをチェックインして、変更が Git リポジトリに反映されるようにします。

プロジェクト、フォルダ、およびアセットの削除

必要なくなった場合には、プロジェクト、フォルダ、またはアセットを削除できます。ただし、削除する前に、組織内のユーザーがその使用を計画していないことを確認してください。プロジェクト、フォルダ、またはアセットは、削除後に取得することはできません。

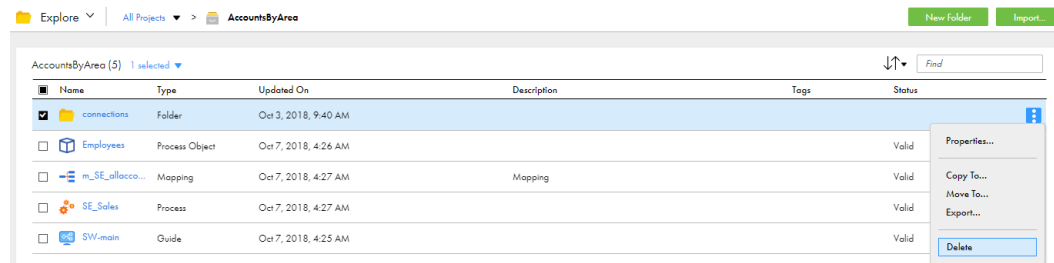
次の状況では、アセットを削除できません。

- アセットが現在実行中のタスクである。
- アセットが現在実行中のマッピングである。
- アセットが別のアセットによって使用されている。先にアセットの依存関係を削除してから、アセットを削除する必要があります。
例えば、あるプロセスで接続が使用されている場合、その接続を削除することはできません。プロセスを削除するか、別の接続を使用するようにプロセスを更新してから、接続を削除します。

アセットの依存関係の表示については、「[「アセット依存関係」 \(ページ 15\)](#)」を参照してください。

- アセットと別のアセットとの間に循環依存関係がある。すべてのアセットを同時に削除する必要があります。例えば、プロセス A がプロセス B により使用され、プロセス B がプロセス C により使用され、プロセス C がプロセス A により使用される場合、これらのプロセスを個別に削除する事は出来ません。これらすべてを同時に削除する必要があります。すべてのプロセスを選択し、**【アクション】** をクリックしてから、**【削除】** を選択します。
アセット依存関係の表示については、「[「アセット依存関係」 \(ページ 15\)](#)」を参照してください。
- アセットがパブリッシュされたアセットである。先にアセットのパブリッシュを解除してから、アセットを削除する必要があります。

次の図に示すように、**【エクスプローラ】** ページからプロジェクト、フォルダ、またはアセットを削除します。



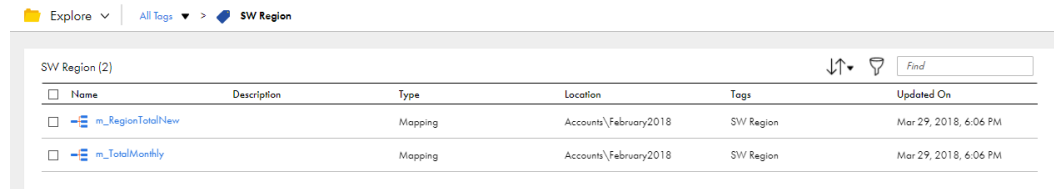
1. **【エクスプローラ】** ページで、削除するオブジェクトに移動します。
2. 組織がソース管理を有効にしている場合は、削除するオブジェクトをチェックアウトします。
3. プロジェクト、フォルダ、またはアセットを含む行で、**【アクション】** をクリックし、**【削除】** を選択します。
4. オブジェクトがチェックアウトされている場合は、オブジェクトをチェックインして、変更が Git リポジトリに反映されるようにします。

タグ

タグは、アセットをグループ化するために使用可能なアセットプロパティです。【エクスプローラ】 ページで共通の属性を共有するアセットをフィルタリングするためにタグを作成します。

例えば、組織の各アセットに、そのアセットを管理する支社を識別するタグが含まれます。南西地域の支社が管理するすべてのアセットを表示するには、【エクスプローラ】 ページで、タグ別に参照を行い、【南西地域】タグをクリックします。

次の図は、この設定を示しています。



Name	Description	Type	Location	Tags	Updated On
m_RegionTotalNew		Mapping	Accounts\Febuary2018	SW Region	Mar 29, 2018, 6:06 PM
m_TotalMonthly		Mapping	Accounts\Febuary2018	SW Region	Mar 29, 2018, 6:06 PM

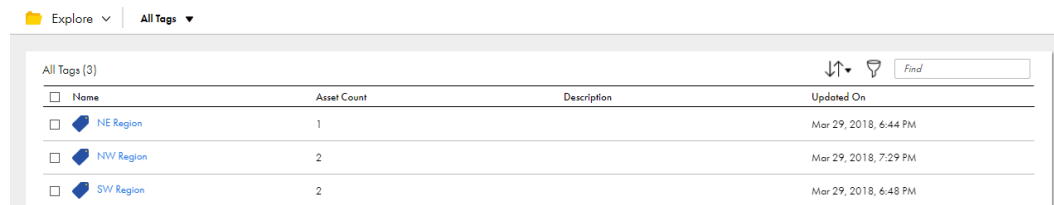
タグはすべてのアセットタイプに割り当てることができます。1つのアセットには最大 64 個のタグを設定できます。

アセットは合計で 512 文字までの複数のタグを付けることができます。1つのタグの最大文字数は 255 文字です。

次のいずれかの方法を使用して、特定のタグを含むすべてのアセットを検索できます。

- 任意の行で、【タグ】 カラムのタグ名をクリックします。
- タグを基準に検索し、ページに表示されるタグの一覧で、タグの名前をクリックします。

次の画像は、組織用に作成されたすべてのタグを一覧表示する【エクスプローラ】 ページを示しています。



Name	Asset Count	Description	Updated On
NE Region	1		Mar 29, 2018, 6:44 PM
NW Region	2		Mar 29, 2018, 7:29 PM
SW Region	2		Mar 29, 2018, 6:48 PM

タグの作成

アセットの【プロパティ】 ダイアログボックスを使用して、そのアセットのタグを作成して割り当てるか、将来使用できるようにタグを作成します。

アセットに割り当てずに複数のタグを作成するには、次の手順を実行します。

1. 【エクスプローラ】 ページで、アセットタイプを参照します。
2. アセットを含む行で、【アクション】 をクリックし、【プロパティ】 を選択します。
3. 【タグ】 フィールドに、作成するタグの名前を入力し、Enter キーを押します。

タグの最大文字数は 255 文字です。

プロジェクト、フォルダ、アセット、またはタグの名前に次の文字を使用することはできません。

? ' | { } " ^ & [] / \

- 引き続き、他のタグを入力します。タグリストに追加するタグ名ごとに Enter キーを押します。

The image shows a 'Properties' dialog box for an asset named 'Accounts_Archive'. It has fields for 'Name', 'Description', and 'Tags'. The 'Tags' field contains four tags: 'NW region', 'SW region', 'NE region', and 'SE region'. There are 'Save' and 'Cancel' buttons at the bottom right.

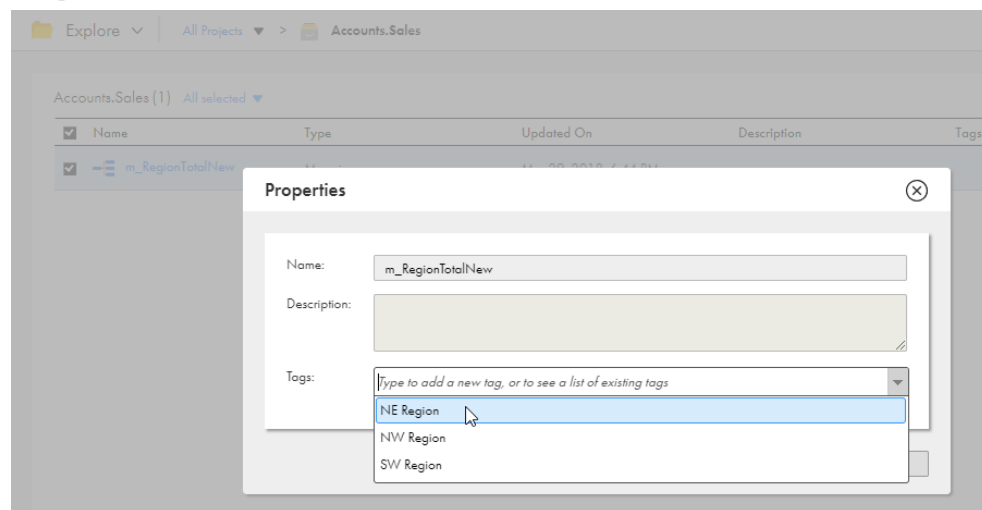
- タグを入力したら、【タグ】フィールドからタグを削除して、アセットがタグに関連付けられないようにします。タグはまだ、使用可能なタグの一覧に表示されたままとなります。
- 【保存】をクリックします。

タグの割り当て

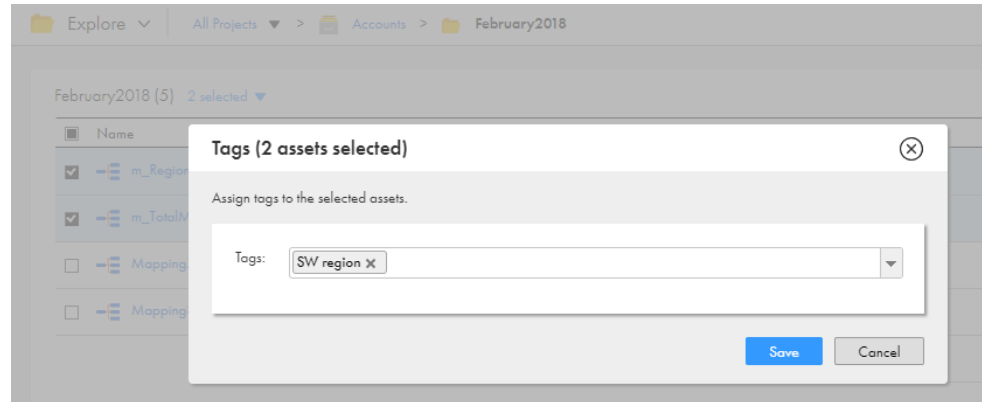
アセットにタグを一对で割り当てたり、複数のアセットに1つのタグを同時に割り当てることができます。複数のタグを1つのアセットに割り当てすることもできます。

アセットにタグを割り当てる場合は、既存のタグを選択するか、新規作成できます。

- 【エクスプローラ】ページで、1つ以上のアセットに移動します。
- 1つのアセットにタグを割り当てるか、複数のアセットにタグを同時に割り当てるかに応じて、次のいずれかのタスクを実行します。
 - 1つのアセットにタグを割り当てるには、アセットを含む行で、【アクション】をクリックし、【プロパティ】を選択します。



- 複数のアセットにタグを同時に割り当てるには、各アセットの行でチェックボックスをオンにします。すべてのアセットを選択した後、選択メニューから **【タグ】** を選択します。



3. 既存のタグを選択するか、新しいタグの名前を入力します。
必要なタグがすべて割り当てられるまで、タグの追加や新しいタグの作成を続けます。
4. **【保存】** をクリックします。

タグの編集と削除

タグは **【エクスプローラ】** ページで編集または削除できます。

タグのプロパティでタグ名または説明を編集します。タグを編集すると、関連するアセットのプロパティも更新されます。例えば、m_sales アセットに NorthWest タグがあり、このタグの名前を NW に変更すると、m_sales アセットプロパティのタグの名前は NW に変更されます。

タグを削除すると、そのタグはアセットプロパティに表示されなくなります。

1. **【エクスプローラ】** ページで、タグを基準にして参照します。
2. タグが含まれている行で、次のいずれかのタスクを実行します。
 - タグを編集するには、**【アクション】** をクリックし、**【編集】** を選択します。変更を行ったら **【保存】** をクリックします。
 - タグを削除するには、**【アクション】** をクリックし、**【編集】** を選択します。

アセット依存関係

アセットのオブジェクトの依存関係を表示できます。アセットに対して特定の操作を実行する前に、オブジェクトの依存関係を確認することをお勧めします。

例えば、別のオブジェクトがアセットに依存している場合、アセットを削除できません。先に依存オブジェクトを削除してから、アセットを削除する必要があります。アセットの依存関係を確認することで、依存オブジェクトを見つけることができます。

【エクスプローラ】 ページでアセットのオブジェクト依存関係を表示できます。アセットのオブジェクト依存関係を表示するには、目的のアセットを含む行で、**【アクション】** をクリックして **【依存関係の表示】** を選択します。**【アセット依存関係】** ページが開き、デフォルトで **【次を使用】** タブが表示されます。

また、対応するアセットデザイナーページから、プロセス、ガイド、アプリ接続、サービスコネクタ、プロセスオブジェクトといったオブジェクトの依存関係を確認することもできます。アセットを開き、**【アクション】** を

クリックして、**【依存関係の表示】** をクリックします。**【アセット依存関係】** ページが開き、デフォルトで **【次を使用】** タブが表示されます。

【次を使用】 タブには、選択したアセットが使用するオブジェクトのリストが表示されます。


例えば、プロセスは別のプロセスを使用する可能性があります。

【次により使用】 タブには、選択したアセットを使用するオブジェクトのリストが表示されます。

例えば、接続は 1 つ以上のプロセスによって使用される可能性があります。

次の図は、プロセスの **【アセット依存関係】** ページを示しています。**【次を使用】** タブが表示されています。

ProcesssubP Dependencies

Uses					Used By
Uses (1)					↓↑
Name	Type	Location	Updated By	Status	
 KafkaConsumer	Process	kafka\Demo	db@info.com	Valid	

最も低いレベルの依存関係にドリルダウンするには、**【依存関係】** ページに表示される各アセットの依存関係をさらに表示します。**【依存関係】** ページの上部にあるパンくずリストには、依存関係のチェーンが表示されます。

次の図は、アセット `mt_FilterArchCustRecords` が、`FF_USW1PF` に依存する `m_FilterCustRecords` に依存していることを示しています。

mt_FilterArchCustRecords Dependencies > m_FilterCustRecords > FF_USW1PF

Uses					Used By
Uses (1)					↓↑
<input type="checkbox"/> Name	Type	Location	Updated By	Status	
<input type="checkbox"/>  USW1PF	Runtime Environment		tray.mo		

適切な権限がある場合は、**【依存関係】** ページで、アセットの表示や削除などのアクションを実行できます。アセットを表示または削除するには、目的のアセットを含む行で、**【アクション】** をクリックしてアクションを選択します。

ソース管理されたアセットを操作する場合、最終プル時刻や最後のチェックインなどのソース管理情報を表示できます。ソース管理情報を表示するには、次のソース管理カラムをテーブルに追加します。

- 最終プル時刻
- チェックアウトしたユーザー
- 前回のチェックイン
- Git のハッシュ

権限

権限によって、Secure Agent、Secure Agent グループ、接続、スケジュール、またはアセットに対するユーザーのアクセス権が決まります。また、オブジェクトに対する追加またはカスタムのセキュリティを追加しま

す。権限によって、オブジェクトに対する権限の読み取り、更新、削除、実行、および変更が可能なユーザーおよびグループが定義されます。

オブジェクトの権限を構成するには、次のライセンスと特権が必要です。

- プロジェクト内のすべてのアセットについてプロジェクトレベルで権限を構成するには、プロジェクトレベルでセキュリティ権限の設定または設定解除を行うためのライセンスが組織に必要です。
- プロジェクト内のすべてのアセットについてフォルダレベルで権限を構成するには、フォルダレベルでセキュリティ権限の設定または設定解除を行うためのライセンスが組織に必要です。
- 個々のアセットの権限を構成するには、セキュリティを詳細に設定するためのライセンスが組織に必要です。
- ユーザーアカウント、または管理者がメンバとなっているグループに割り当てられたロールには、オブジェクトタイプに対する権限の設定特権が必要です。例えば、Secure Agent の権限を構成するには、Secure Agent に対する権限の設定特権を持つロールが割り当てられる必要があります。

オブジェクトの権限を構成するには、オブジェクトに移動して適切な権限を設定します。例えば、開発チームのユーザーグループのユーザーだけが開発データフォルダのアセットにアクセスできるようにします。フォルダに移動し、権限を編集し、フォルダに開発チームのユーザーグループの権限を付与します。

権限は、オブジェクトのコピーではなく、設定したオブジェクトに適用されます。したがって、アセットをコピーまたはエクスポートする場合、その権限はアセットと一緒にコピーまたはエクスポートされません。例えば、ユーザー rjones が実行権限を持っているマッピングタスクをエクスポートします。マッピングタスクをインポートすると、インポートされたマッピングには割り当てられた権限がありません。したがって、マッピングタスクを実行する特権を持つユーザーは、インポートされたタスクを実行できます。

オブジェクトに対して次の権限を構成できます。

権限	説明
読み取り	オブジェクトを開いて表示します。 オブジェクトがソース管理されている場合、この権限を持つユーザーまたはグループは、オブジェクトをソース管理リポジトリからプルまたはチェックアウトできます。操作を実行するには、統合ハブ接続にアクセスするための読み取り権限が必要です。 タスクを選択すると、この権限によって、ユーザーまたはグループがタスク内の接続またはスケジュールを使用することもできます。
更新	オブジェクトを編集します。 オブジェクトがソース管理されている場合、この権限によって、ユーザーまたはグループは、オブジェクトをチェックイン、チェックアウト、プル、リンク解除、またはロールバックできます。 読み取り権限が必要です（自動的に付与される）。
削除	オブジェクトを削除します。
実行	オブジェクトを実行します。 マッピング、タスク、タスクフロー、および Cloud 統合ハブアセットに適用されます。マッピング、タスク、またはタスクフローのインスタンスを監視、停止、および再起動します。
権限の変更	オブジェクトに割り当てられている権限を変更します。

注: これらの権限は、Informatica Intelligent Cloud Services 内で制御されます。Windows や Linux で Secure Agent を起動、停止、または設定する場合の権限のような、オペレーティングシステムの権限を制御するものではありません。

権限のルールおよびガイドライン

権限には、次の規則とガイドラインを使用します。

- オブジェクトの権限を構成するときに、権限を付与するユーザーまたはグループに、そのオブジェクトタイプに対する適切な特権を持つロールが割り当てられていることを確認します。例えば、ユーザーに特定のフォルダに対するサービスコンシューマロールの更新特権があっても、サービスコンシューマロールにはフォルダの更新特権がないため、ユーザーはフォルダを更新できません。
- アセットを編集するには、アセット内で使用されているすべてのアセットに対する読み取り権限がユーザーに与えられている必要があります。例えば、同期タスクに対する読み取りおよび更新の権限をユーザーに割り当てた場合、そのユーザーにタスクで使用されている接続、マップレット、スケジュール、および保存されたクエリに対する読み取り権限もあることを確認します。
- ユーザーがタスクを編集すると、読み取り権限のないアセットは表示されません。予期しない結果を回避するには、ユーザーが適切な読み取り権限を付与されるまで、すべての変更をキャンセルし、タスクの編集を回避する必要があります。
- タスクフローを構成する場合、ユーザーは、タスクフローに追加するすべてのタスクに対する実行権限を必要とします。
- タスクフローを編集するには、タスクフローのすべてのタスクに対して実行権限が必要です。すべてのタスクに対して実行権限がない場合、ユーザーはタスクフローに変更を保存できません。
- タスクフローを実行するには、ユーザーにタスクフローに対する読み取り権限と実行権限が必要です。
- ジョブを監視したり、実行中のジョブを停止したりするには、ユーザーはマッピング、タスク、またはタスクフローの実行権限を必要とします。
- データ統合タスクにカスタム権限を割り当てて、アプリケーション統合プロセスまたはガイドを介してデータ統合タスクを呼び出す場合は、次のいずれかのタスクを実行する必要があります。
 - アプリケーション統合の匿名ユーザーに、関連するデータ統合アセットの実行権限を付与します。
 - アプリケーション統合の匿名ユーザーを、関連するデータ統合アセットの実行権限を持つユーザーグループに追加します。

権限の設定

オブジェクトタイプに対する権限の設定特権を持つロールが割り当てられている場合は、オブジェクトの権限を構成できます。例えば、フォルダの権限を構成するには、フォルダの権限の設定特権を持つロールが割り当てられている必要があります。

1. 権限を構成するオブジェクトに移動します。

例:

- Secure Agent または Secure Agent グループの権限を構成するには、管理者で **【ランタイム環境】** を選択します。
 - 接続の権限を構成するには、管理者で **【接続】** を選択します。
 - マッピングの権限を構成するには、データ統合でマッピングを含むプロジェクトとフォルダを開きます。
2. オブジェクトを含む行で、**【アクション】** をクリックして **【権限】** を選択するか、**【権限の変更】** アイコンをクリックします。

【権限】 ダイアログボックスには、オブジェクトに対する権限を持つユーザーとグループが一覧表示されます。

【権限】 ダイアログボックスにユーザーまたはグループが一覧表示されない場合は、そのオブジェクトに対して権限が構成されていません。オブジェクトタイプに対して適切な特権を持つユーザーは、オブジェクトにアクセスできます。

次の図は、マッピングの【権限】ダイアログボックスを示しています。

<input type="checkbox"/>	User Name	First Name	Last Name	Read	Update	Delete	Execute	Change Permissions
<input type="checkbox"/>	mclark	Melissa	Clark	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	ajones	Adam	Jones	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	dsmith	David	Smith	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3. オブジェクトに対するユーザー権限を構成するには:

- 【ユーザー】を選択します。
- ユーザーが【ユーザー】の一覧に表示されていない場合は、【追加】をクリックし、ユーザーを選択します。
- ユーザーに対する適切な権限を有効または無効にします。

注: オブジェクトに対するユーザー権限を付与すると、Informatica Intelligent Cloud Services によって管理者もオブジェクトに対するアクセス権限を持つユーザーとして追加されます。これにより、権限を構成するときにオブジェクトへのアクセスが失われるのを防ぎます。

4. オブジェクトに対するユーザーグループの権限を構成するには:

- 【グループ】を選択します。
- グループが【グループ】の一覧に表示されていない場合は、【追加】をクリックし、グループを選択します。
- グループに対する適切な権限を有効または無効にします。

注: オブジェクトに対するグループの権限を付与すると、Informatica Intelligent Cloud Services によって管理者もオブジェクトに対するアクセス権限を持つユーザーとして追加されます。これにより、権限を構成するときにオブジェクトへのアクセスが失われるのを防ぎます。

5. オブジェクトの権限の制限をすべて削除するには、【権限】ダイアログボックスからすべてのユーザーとグループを削除します。

すべてのユーザーとグループを削除すると、そのオブジェクトタイプに対して適切な特権を持つすべてのユーザーがオブジェクトにアクセスできるようになります。

6. 【保存】をクリックします。

第 2 章

ソース管理

Informatica Intelligent Cloud Services で GitHub ソース管理リポジトリまたは Azure DevOps Git ソース管理リポジトリを使用することにより、プロジェクト、フォルダ、アセットなどの Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトに加えた変更を管理および追跡できます。

ソース管理を使用すると、**【エクスプローラ】** ページに表示される Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトのバージョン管理を実現できます（データ統合バンドルを除く）。ランタイム環境や接続など、**【エクスプローラ】** ページに表示されないオブジェクトに対してソース管理を適用することはできません。ソース管理リポジトリ構造は、組織内の構造をミラーリングしており、**【エクスプローラ】** が最上位ディレクトリです。

ユーザーがソース管理対象オブジェクトでアクションを実行するたびに、Informatica Intelligent Cloud Services はアクションのログを記録します。ソース管理ログは、モニタサービスで表示できます。詳細については、Monitor ヘルプにある、**ソース管理ログの監視**に関する説明を参照してください。

ソース管理を使用するには、次の前提条件を満たす必要があります。

- ソース管理を使用するための適切な Informatica Intelligent Cloud Services ライセンスを組織が所有している。
- 組織の管理者によって、ソース管理リポジトリと Informatica Intelligent Cloud Services 組織との間の接続が構成されている。
- ユーザーロールに、Informatica Intelligent Cloud Services のソース管理機能を使用するための特権があります。
- ソース管理リポジトリのユーザー資格情報が Informatica Intelligent Cloud Services に入力されている。

GitHub ソース管理リポジトリまたは Azure DevOps Git ソース管理リポジトリと Informatica Intelligent Cloud Services との間の接続を構成する方法については、管理者ヘルプを参照してください。

注: Informatica Intelligent Cloud Services でソース管理リポジトリを使用する場合は、プロジェクトやフォルダなどのコンテナに含めるオブジェクトは 1000 個以内にすることをお勧めします。

ソース管理のアクション

プロジェクト、フォルダ、アセットなどのソース管理オブジェクトに対しては、次のアクションを実行できます。

オブジェクトをプルする。

オブジェクトをプルして、組織に追加するか、ソース管理リポジトリにあるバージョンでプロジェクトを更新します。

オブジェクトをチェックアウトする。

処理するオブジェクトをチェックアウトします。オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、他のユーザーはそのオブジェクトを変更できません。

オブジェクトをチェックインする。

オブジェクトをチェックインして、オブジェクトをソース管理リポジトリに追加するか、オブジェクトの最新バージョンでソース管理リポジトリを更新します。オブジェクトをチェックインすると、ロックは解除されます。

オブジェクトを削除する。

組織とソース管理リポジトリからオブジェクトを削除します。オブジェクトを削除するには、事前にオブジェクトをチェックアウトしておく必要があります。

オブジェクトのバージョンをリストアする。

オブジェクトを以前のバージョンにリストアします。

チェックアウトを取り消します。

オブジェクトに対して加えた変更を保存しない場合は、チェックアウトを取り消します。チェックアウトを取り消すと、オブジェクトは最後のソース管理バージョンに戻ります。

オブジェクトをリンク解除する。

組織内のオブジェクトをソース管理リポジトリ内のオブジェクトと同期する必要がなくなった場合は、オブジェクトをリンク解除します。

注: ソース管理リポジトリを更新する権限がない組織もあります。所属する組織がリポジトリを更新できない場合は、プルアクションを実行して、指定したバージョンの Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトを取得します。ただし、チェックアウトやチェックインなどの他のソース管理アクションをオブジェクトに対して実行することはできません。

オブジェクトをチェックアウト、プル、またはリンク解除したり、チェックアウトを取り消すには、そのオブジェクトに対する更新権限が必要です。

ソース管理と Git リポジトリ

主に Git ソース管理リポジトリを直接操作している場合、ソース管理を Informatica Intelligent Cloud Services で使用するときと Git で直接操作するときで若干の違いがあることに気付くはずですが、

次のような違いがあります。

- Informatica Intelligent Cloud Services のプルアクションは、Git のプルコマンドと同じです。ただし、Informatica Intelligent Cloud Services のプルでは、変更を統合できません。
- Informatica Intelligent Cloud Services のチェックアウトアクションはオブジェクトをロックするため、他のユーザーがそのオブジェクトをチェックアウトしたり変更することはできません。
- Informatica Intelligent Cloud Services のチェックインアクションは、Git の commit コマンドと push コマンドを組み合わせたものと同じです。チェックインを使用すると、Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトがソース管理リポジトリに追加され、変更内容がリポジトリにコミットされます。

リポジトリアクセスの設定

ソース制御オブジェクトを操作するには、Informatica Intelligent Cloud Services で GitHub または Azure DevOps Git リポジトリの認証情報を指定します。

資格情報には、ユーザー名とパーソナルアクセストークンを含めることができます。

管理者が組織のリポジトリを OAuth アクセス用に設定している場合は、パーソナルアクセストークンを提供する代わりに OAuth アクセスを有効化することができます。

パーソナルアクセストークンは、プライベートリポジトリを完全に制御できるように設定する必要があります。パーソナルアクセストークンの生成については、GitHub または Azure DevOps Git のヘルプを参照してください。

Informatica Intelligent Cloud Services で次のステップを実行して、リポジトリへのアクセスを設定します。

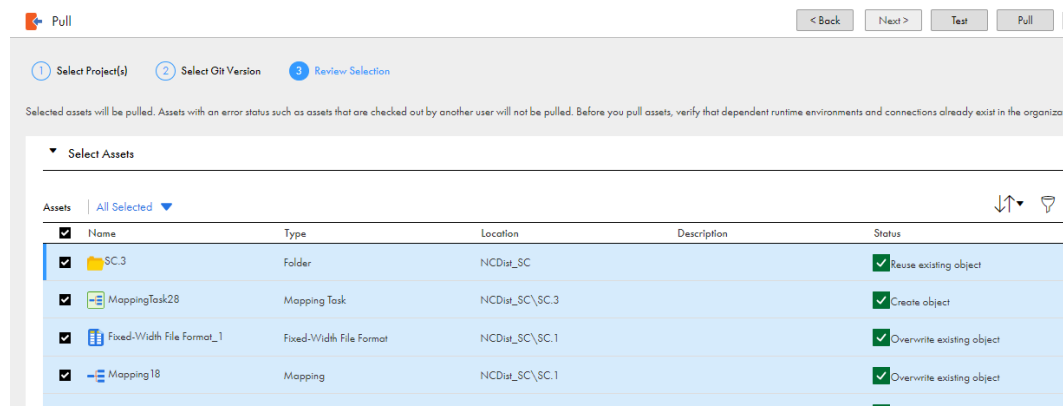
1. Informatica Intelligent Cloud Services ウィンドウ右上隅にある **【ユーザー】** アイコンをクリックして、**【設定】** を選択します。
2. 次のいずれかの手順に従います。
 - リポジトリの資格情報を入力します。GitHub の場合は、ユーザー名とパーソナルアクセストークンを入力します。Azure DevOps Git の場合は、パーソナルアクセストークンを入力します。
 - リポジトリへの OAuth アクセスを有効にします。アクセスを許可していない場合は、Git アクセスアプリが表示されます。Informatica Intelligent Cloud Services へのアクセスを承認する場合に選択します。
3. **【保存】** をクリックします。

ソース管理のプル

オブジェクトをプルして、組織に追加するか、ソース管理リポジトリにあるバージョンで組織内のオブジェクトのバージョンを置き換えます。別のユーザーがチェックアウトしていないプロジェクト、フォルダ、または個々のオブジェクトをプルできます。

プルを実行する前に、プルを行った場合の結果を確認することができます。アクションをキャンセルしたり、プル操作から除外するオブジェクトを選択することもできます。

次の図は、**【ステータス】** カラムに可能性がある結果を表示したプレビューページを示しています。



プルをテストして、エラーが発生していないかどうかを確認することもできます。エラーが表示された場合は、オブジェクトをプル対象から除外したり、ページを閉じてプルをキャンセルできます。

依存オブジェクトはプル操作の対象になりません。たとえば、データ統合で、保存済みクエリを使用するマッピングをプルした場合、保存済みクエリはプルに含まれません。

組織内のプル対象オブジェクトの状態は、プルを行っても変更されません。例えば、プルされる前にチェックアウトされていたオブジェクトは、プル操作の後もチェックアウト状態のままです。

以下の規則とガイドラインに従う必要があります。

- 接続またはランタイム環境を使用するオブジェクトをプルする場合、プルを実行する前に、組織内に接続またはランタイム環境を含める必要があります。接続またはランタイム環境を使用するオブジェクトを選択する場合は、テストページでランタイム環境と接続を選択します。
- Informatica Intelligent Cloud Services では、オブジェクト名の太文字と小文字は区別されません。そのため、同じ名前で大文字と小文字が異なる複数のアセットを含んだプロジェクトをプルすることはできません。例えば、「sales」という名前のアセットと「SALES」という名前のアセットを含むプロジェクトをプルしようとする、プロジェクトまたはフォルダに同じ名前の複数のアセットを含めることができないため、エラーが発生します。
- 組織がソース管理リポジトリを更新できるかどうかに関係なく、オブジェクトをプルできます。

プロジェクトとフォルダのプル

プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトをプルすることも、特定のコミットハッシュで変更されたオブジェクトのみをプルすることもできます。

プルするオブジェクトのバージョンを指定します。選択できるオブジェクトのバージョンは、Informatica Intelligent Cloud Services でのオブジェクトの現在の場所に基づいています。たとえば、m_customers オブジェクトのバージョン 5 をチェックアウトして、NewCustomers というプロジェクトに移動するとします。オブジェクトをプルすると、使用可能なバージョンには、以前の場所からのオブジェクトのバージョンが含まれません。

プロジェクトまたはフォルダをプルする場合、そのプルは、ソース管理されていないプロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトには影響しません。

プルにより、組織内のプロジェクトまたはフォルダが更新され、リポジトリ内のプロジェクトまたはフォルダの選択したバージョンと同一になります。たとえば、プロジェクトの以前のバージョンをプルする際、組織内のそのプロジェクトに後のバージョンで追加されたオブジェクトが含まれている場合、プルによってそのオブジェクトは削除されます。

オブジェクトのプル

プルアクションを使用して、組織をソース管理リポジトリのオブジェクトで更新します。単一のアセット、プロジェクト、またはフォルダをプルできます。プロジェクトまたはフォルダをプルする場合、プルに含めたくないプロジェクトまたはフォルダ内のアセットを除外できます。

プロジェクト、フォルダ、または単一のアセットをプルするには、次のステップを実行します。

1. プロジェクトをプルするには、**[参照]** ページで、**[Git からプルする]** をクリックします。プルするオブジェクトを含むプロジェクトを選択し、**[次へ]** をクリックします。
2. 単一のアセットまたはフォルダをプルするには、**[参照]** ページで、対象のアセットまたはフォルダを選択します。**[アクション]** をクリックし、**[プル]** を選択します。
3. プロジェクトまたはフォルダに対して、使用するプル方法を選択し、**[次へ]** をクリックします。以下のいずれかの方式を使用できます。
 - コミットハッシュ内のすべてのアセットをプル。
 - コミットハッシュ内の変更されたアセットのみをプル。
4. プルする Git ハッシュを選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. アセットのリストを確認します。プルに含めたくないアセットのチェックボックスをオフにすることができます。デフォルトでは、すべてのアセットが選択されています。
6. 各アセットの【ステータス】カラムのアクションを確認します。これらのアクションは、プルアクションの実行時に発生します。
7. アセットをプルするときにパブリッシュする場合は、**【インポート後にアプリケーション統合アセットをパブリッシュする】**を選択します。
8. 必要に応じて、**【テスト】**をクリックし、プルアクションの結果としてエラーが発生するかどうかを確認します。
9. **【プル】**をクリックします。
プルアクションにより、このアクションの詳細を示すログが生成されます。ログは、**【監視】**の**【ソース管理ログ】**ページで確認できます。

オブジェクトのチェックアウトおよびチェックイン

オブジェクトをチェックアウトして、変更を加えることができます。ソース管理リポジトリに変更を適用して更新する場合は、オブジェクトをチェックインします。オブジェクトをチェックインすることで、それらをソース管理リポジトリに追加することもできます。

オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、他のユーザーはそのオブジェクトを変更できません。オブジェクトをチェックインする際、オブジェクトの新しいバージョンがソース管理リポジトリに作成されます。

ソース管理されていないフォルダまたはプロジェクトにあるオブジェクトをチェックインすると、そのフォルダまたはプロジェクトはソース管理されます。アセットは、プロジェクトやフォルダなどのコンテナに含まれているのでないかぎり、ソース管理リポジトリには配置できません。

ソース管理を使用している組織にアセットをインポートする場合は、上書きできるようにアセットをチェックアウトする必要があります。

注: チェックインのサイズは 50MB を超えることはできません。

オブジェクトのチェックアウト

オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、変更を加えている間は他のユーザーによる更新は行えません。

チェックアウトは、個々のオブジェクトや複数のオブジェクトに対して行うことができるほか、プロジェクトまたはフォルダをチェックアウトして、それらのプロジェクトやフォルダに含まれるすべてのオブジェクトをチェックアウトすることもできます。

オブジェクトをチェックアウトする前に、プルを実行して、オブジェクトの最新バージョンを更新するようにします。プルアクションの詳細については、[「ソース管理のプル」\(ページ 22\)](#)を参照してください。

1. **【エクスプローラ】** ページで、チェックアウトするオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【チェックアウト】** を選択します。
3. チェックアウトに複数のオブジェクトが含まれる場合は、プレビューページの**【ステータス】** カラムで結果を確認します。オブジェクトを除外する場合は、そのオブジェクトの名前の横にあるチェックボックスをオフにします。
4. **【チェックアウト】** をクリックします。

オブジェクトのチェックイン

オブジェクトをチェックインして、オブジェクトをソース管理リポジトリに追加したり、組織内のオブジェクトの最新バージョンでソース管理リポジトリを更新できます。

オブジェクトに何も変更が加えられなかった場合、チェックインはソース管理履歴に反映されず、オブジェクトの新しいバージョンもソース管理リポジトリに作成されません。

注: チェックインのサイズは 50MB を超えることはできません。

1. **【エクスプローラ】** ページで、チェックインするオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【チェックイン】** を選択します。
3. チェックインに複数のオブジェクトが含まれる場合は、プレビューページの **【ステータス】** カラムで結果を確認します。オブジェクトを除外する場合は、そのオブジェクトの名前の横にあるチェックボックスをオフにします。アクションをキャンセルする場合は、ページを閉じます。
4. サマリを追加し、オプションで説明を追加します。
サマリは必須で、最大 255 文字まで入力できます。
5. **【OK】** をクリックします。

オブジェクトの削除

ソース管理オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトを組織とソース管理リポジトリから削除します。

オブジェクトは、先にチェックアウトしないと削除できません。

他のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトを削除したり、プロジェクトやフォルダを再帰的に削除することはできません。

1. **【エクスプローラ】** ページで、削除するオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【削除】** を選択します。
3. 組織からのアセットの削除を承諾するには、**【削除】** をクリックします。
4. 削除アクションの理由を記したサマリを追加します。オプションで説明も追加します。
サマリは必須で、最大 255 文字まで入力できます。
5. オブジェクトをリポジトリから削除し、削除アクションを完了するには、**【OK】** をクリックします。

以前のバージョンに戻す

オブジェクトに対して加えた変更を破棄する場合は、以前のバージョンに戻すことができます。

以前のバージョンに戻すには、プルアクションを実行し、組織で復元するバージョンを選択します。

プロジェクトまたはフォルダのバージョンを取り消す際、Informatica Intelligent Cloud Services 内のプロジェクトまたはフォルダにリポジトリのプロジェクトまたはフォルダにないオブジェクトが含まれている場合、それらがソース管理されている追加オブジェクトの場合はプルアクションで削除されます。オブジェクトがソース管理されていない場合、このアクションで追加オブジェクトは削除されません。

プルアクションの詳細については、[「ソース管理のプル」 \(ページ 22\)](#)を参照してください。

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを取り消すと、オブジェクトは最後にプルされたバージョンに戻ります。オブジェクトのバージョン履歴には、チェックアウトやチェックアウトアクションを取り消した記録は残りません。チェックアウトの取り消しによってロックが解除されるため、オブジェクトはチェックアウトできる状態になります。

1回のチェックアウトアクションで、個々のオブジェクト、複数のオブジェクト、またはプロジェクトやフォルダのチェックアウトを取り消すことができます。

チェックアウトしたオブジェクトのチェックアウトは取り消すことができます。管理者ロールがあるか、ユーザーロールに管理者サービスのチェックアウトの強制取り消し機能の権限がある場合を除き、別のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトのチェックアウトを取り消すことはできません。

プロジェクトまたはフォルダのチェックアウトを取り消す場合、プロジェクトまたはフォルダ内のどのオブジェクトを含めるか除外するかを選択できます。デフォルトでは、すべてのオブジェクトが含まれています。

注: チェックアウト後にオブジェクトが移動されるか名前が変更された場合、チェックアウトを取り消すと、オブジェクトの名前と場所がチェックアウト前の名前と場所にリストアされます。

1. **【エクスプローラ】** ページで、オブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【チェックアウトの取り消し】** を選択します。
3. チェックアウトの取り消しにプロジェクトまたはフォルダが含まれている場合は、プレビューページで、プロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトを選択して、チェックアウトの取り消しアクションから除外します。

オブジェクトのリンク解除

オブジェクトをリンク解除してソース管理の対象から外すことができます。

オブジェクトをリンク解除しても、ソース管理リポジトリや組織からオブジェクトは削除されませんが、組織内のオブジェクトに加えた変更をリポジトリに反映して更新することはできなくなります。後でオブジェクトを再びリンクする場合は、そのオブジェクトをチェックインしてリンクを再作成します。オブジェクトの名前またはパスが変更されていない場合、チェックインしたオブジェクトは、ソース管理リポジトリ内で新しいバージョンのオブジェクトになります。

オブジェクトは、チェックインしないとリンク解除できません。管理者ロールがあるか、ユーザーロールに Administrator サービスのチェックアウトの強制取り消し機能の権限がある場合は、別のユーザーがチェックアウトしたオブジェクトのリンクを解除できます。

ソース管理オブジェクトを含むプロジェクトまたはフォルダをリンク解除することはできません。プロジェクトまたはフォルダをリンク解除するには、プロジェクトまたはフォルダに含まれる各オブジェクトを先にリンク解除する必要があります。

1. **【エクスプローラ】** ページで、リンク解除するオブジェクトに移動します。
2. オブジェクトが含まれている行で、**【アクション】** をクリックし、**【リンク解除】** を選択します。

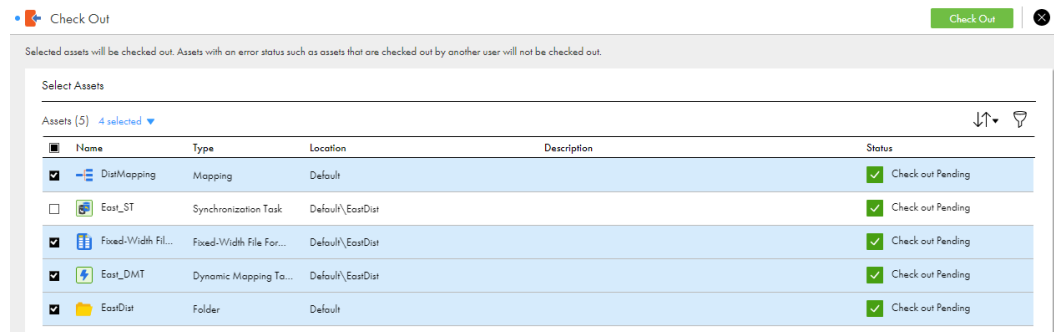
複数のオブジェクトの操作

複数のオブジェクトを選択して、チェックイン、チェックアウト、チェックアウトの取り消し、またはリンク解除を行うことができます。

選択したオブジェクトの合計サイズは 50MB を超えることはできません。

プロジェクトまたはフォルダを選択するか、プロジェクトまたはフォルダ内の複数のオブジェクトを選択できます。ソース管理アクションにプロジェクト、フォルダ、または複数のオブジェクトを含めると、アクションを続行した場合の予想される結果を示すプレビューページが表示されます。プレビューページにリストされたオブジェクトがソース管理されていない場合、そのオブジェクトは無視されます。オブジェクトが他のユーザーによってチェックアウトされている場合、またはオブジェクトを更新する権限がない場合、プレビューページのステータスは、アクションが失敗することを示します。続行する前に、オブジェクトの削除を選択できます。

例えば、デフォルトプロジェクトでは、EastDist フォルダと DistMapping アセットを選択してチェックアウトします。プレビューページには、DistMapping アセット、EastDist フォルダ、および EastDist フォルダ内のすべてのオブジェクトが含まれています。East_ST アセットをチェックアウトしないため、チェックアウトアクションを続行する前にチェックボックスをオフにします。次の図は、プレビューページを示しています。



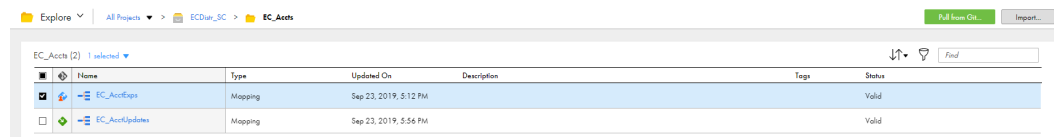
ブルに複数のオブジェクトを選択すると、プレビューページにリポジトリ内のすべてのバージョンが一覧表示されます。

注: 1 つのトランザクションで複数のオブジェクトを削除することはできません。

[エクスプローラ] ページのソース管理カラムの表示

組織にソース管理されているオブジェクトがある場合は、[エクスプローラ] ページに、オブジェクトがチェックイン、チェックアウト、ソース管理対象外のどの状態になっているかを示す追加のカラムが表示されます。

次の図の青と赤のアイコンは、EC_AcctExps オブジェクトがチェックアウトされていることを示しています。

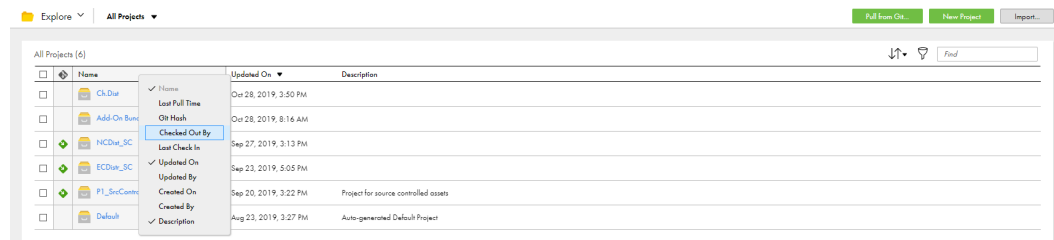


ソース管理のカラムを追加で使用できますが、デフォルトでは表示されません。ソース管理に関連するすべてのカラムを表示するように [エクスプローラ] ページをカスタマイズすることもできます。これにより、ソース管理オブジェクトを簡単に識別できるうえ、カラムを使用してページ上のソース管理オブジェクトをフィルタまたはソートできます。

次のソース管理関連のカラムを【エクスプローラ】ページに追加できます。

- 最終プル時刻
- チェックアウトしたユーザー
- 前回のチェックイン
- Git のハッシュ

これらのカラムを表示するには、次の図に示すように、カラムの見出しを右クリックし、追加するカラムを選択します。



ソース管理のベストプラクティス

ソース管理を効率的に使用するには、ベストプラクティスとして次のガイドラインを使用してください。

アセットを開発し操作するときは、次のガイドラインに従います。

依存関係の管理に関するガイドライン

依存関係を持つアセットを管理するには、次のガイドラインに従います。

- アセットをリポジトリからプルする前に、接続およびランタイム環境を作成します。
必要な接続およびランタイム環境がターゲット組織内にあるときは、タスクをリポジトリからプルした直後に実行できます。
- マッピングやコンポーネントなどの再利用可能なアセットが、使用前にリポジトリ内にあることを確認します。

Informatica Intelligent Cloud Services は、マッピングタスクなどのアセットが依存するマッピングが組織内にない場合、アセットの保存を許可しません。

アセットのチェックインおよびチェックアウトに関するガイドライン

アセットをチェックインおよびチェックアウトするときは、次のガイドラインに従います。

- アセットの名前を変更または移動する場合は、アセットの第 1 レベルの依存アセットをチェックアウトし、それらを同じチェックインに含めます。

例えば、マッピングタスクが使用するマッピングの名前を変更する必要がある場合、そのマッピングタスクがタスクフローで使用されている場合は、マッピングとマッピングタスクをチェックアウトします。タスクフローをチェックアウトする必要はありません。マッピングの名前を変更した後に、マッピングとマッピングタスクを 1 回のチェックインアクションでチェックインします。

- アセットのチェックイン時にコメントを入力します。

アセットのチェックイン時に、リリースタグ名を【サマリ】フィールドに入力し、より説明的なコメントを【説明】フィールドに入力することがあります。これを実行すると、Informatica Intelligent Cloud Services の【Git Summary (Git サマリ)】フィールドに、アセットに関連付けられたリリースタグが表示されます。

- 複数のアセットを同時にチェックインするときは、アセット数を 1000 件以下に制限します。
1000 件を超えるアセットを同時にチェックインすると、Informatica Intelligent Cloud Services と GitHub リポジトリサービスとの間のパフォーマンスが低下する可能性があります。

第 3 章

アセットの移行

ある組織から別の組織に Informatica Intelligent Cloud Services アセットを移行できます。アセットを移行するには、ソース組織からアセットをエクスポートし、そのアセットをターゲット組織にインポートします。

次のタイプのアセットをインポートおよびエクスポートできます。

- プロセス
- ガイド
- 接続
- サービスコネクタ
- プロセスオブジェクト

単一のアセット、アセットグループ、またはプロジェクト内のすべてのアセットをエクスポートできます。プロジェクトまたはフォルダをエクスポートする場合、ファイル構造はそのまま残るため、ターゲット組織でインポートを実行するときに、元の構造を複製することができます。

サブ組織のアセットをエクスポートまたはインポートするには、サブ組織にログインします。親組織の管理者権限がある場合は、サブ組織に切り替えて、アセットをエクスポートまたはインポートすることもできます。

アセットのエクスポート

アセットをエクスポートする場合、Informatica Intelligent Cloud Services はエクスポート用に選択されたアセットを含むエクスポート ZIP ファイルを作成します。

エクスポートする個別のアセットを選択するか、全体のプロジェクトまたはフォルダを選択できます。プロジェクトまたはフォルダをエクスポートする場合、エクスポートファイルにはプロジェクトまたはフォルダ内のすべてのアセットが含まれます。

アセットをエクスポートするには、次の権限が必要です。

- ユーザーロールにアセットをエクスポートする権限が必要です。
- アセットの読み取り権限が必要です。

注: エクスポートファイルに含めるオブジェクトの数は 1000 以下にすることをお勧めします。

エクスポートファイル

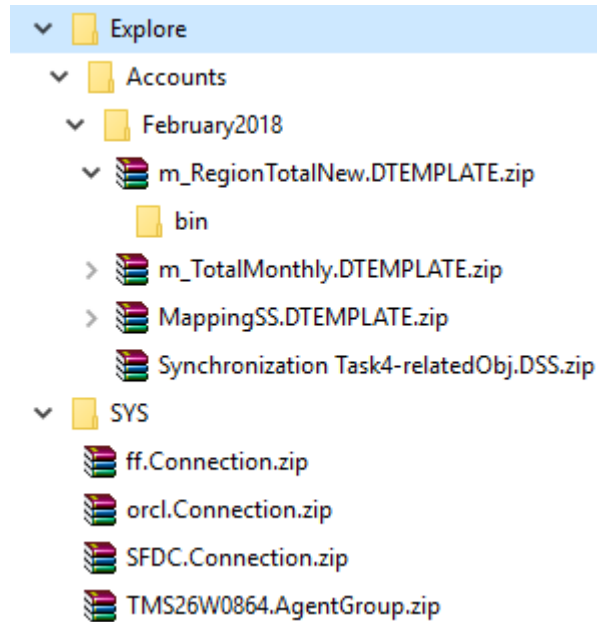
エクスポートファイルには、ファイル内のオブジェクトをリストにしたスプレッドシートが含まれます。
次の図は、エクスポートスプレッドシートの例です。

	A	B	C	D
1	objectPath	objectName	objectType	id
2	/Explore/AccountsByArea/Mappings	Accounts_Archive	DTEMPLATE	7VLIQPIStHkYkHiBr6sSQMO
3	/Explore/AccountsByArea	Mappings	Folder	1rDmft2kePMeQNz6SmGaUg
4	/SYS	FlatFile3	Connection	6lh0UOiNgi1kcjJ2MMt7qQ
5	/SYS	USW1PF0WZ3NF	AgentGroup	aBhe8P8LvBXjREVnWfywII
6	/Explore	AccountsByArea	Project	5j0PyB0GjtseQ8YbmlqzMQ

エクスポートファイルの構造

エクスポートファイルは、プロジェクト、フォルダ、およびアセットについて、ソース組織の【エクスプローラ】ページのファイル構造を保持します。接続とランタイム環境はSYS フォルダにあります。

次の図は、エクスポートファイルの内容を示しています。



次の図は、ソース組織の【エクスプローラ】ページ上の同じオブジェクトを示しています。

Explore > All Projects > Accounts > February2018

February2018 (5)						Find
<input type="checkbox"/>	Name	Type	Updated On	Description	Tags	Status
<input type="checkbox"/>	m_RegionTotalNew	Mapping	Mar 27, 2018, 9:43 PM		SW region	Valid
<input type="checkbox"/>	m_TotalMonthly	Mapping	Mar 20, 2018, 4:09 PM		SW region	Valid
<input type="checkbox"/>	Mapping7	Mapping	Mar 30, 2018, 10:29 AM		mapping1Tag	Valid
<input type="checkbox"/>	MappingSS	Mapping	Mar 29, 2018, 3:37 PM			Valid
<input type="checkbox"/>	Synchronization Ta...	Synchronization Task	Mar 29, 2018, 10:54 AM			Valid

オブジェクト名

各アセットは、関連付けられたメタデータおよび JSON ファイルと共に ZIP ファイルに格納されます。zip ファイルには、アセットタイプによって追加されたアセット名が含まれます。

例えば、m_totals という名前のマッピングがソース組織にある場合、エクスポートファイルでは m_totals.DTEMPLATE という名前になります。m_totals マッピングをターゲット組織にエクスポートすると、アセットには元の名前の m_totals が付きます。

次の表は、アセットタイプと、それに関連してデータ統合アセット名に追加される拡張子を示しています。

アセットタイプ	内線番号
マッピング	DTEMPLATE
マッピング（詳細モード）	ATSCALEDTEMPLATE
マッピングタスク	MTT
レプリケーションタスク	DRS
同期タスク	DSS
マスキングタスク	DMASK
リニアタスクフロー	WORKFLOW
PowerCenter タスク	PCS
マップレット	CUSTOM_FUNC
保存済みクエリ	CUSTOM_SOURCE
Visio テンプレート	TEMPLATE
タスクフロー	TASKFLOW

アセットのエクスポート

エクスポートでは、1つのアセット、複数のアセット、または1つのプロジェクトを選択できます。

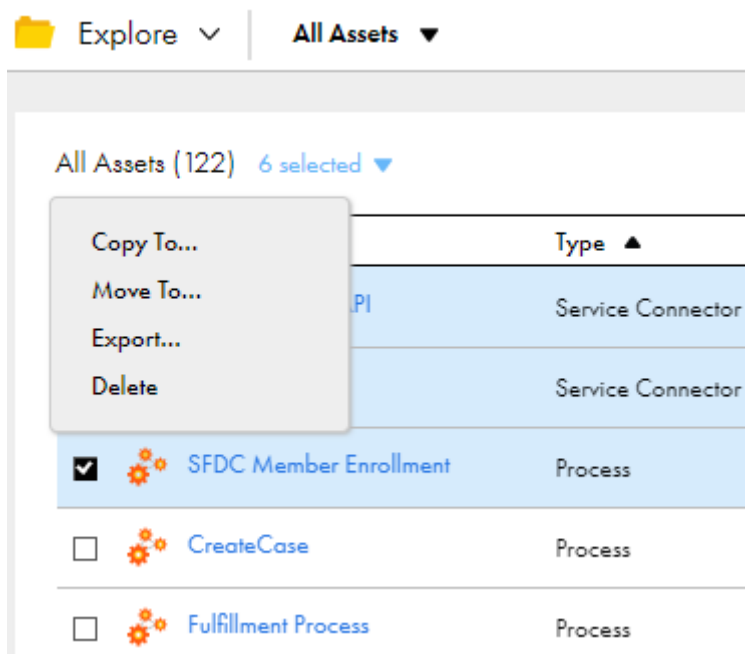
複数のアセットを含めるには、フォルダ内の各アセットを選択するか、すべてのアセットをエクスポートするプロジェクトまたはフォルダを選択します。プロジェクトをエクスポートすると、インポート時にプロジェクト全体をインポートするか、選択したアセットのみをインポートできます。

1. ソース組織にログインします。
2. **【参照】** ページで、エクスポートするアセットに移動します。
3. エクスポートするアセットを選択します。

1つのアセットまたはプロジェクトをエクスポートするには、アセットまたはプロジェクトを選択して、**【アクション】** をクリックし、**【エクスポート】** を選択します。

複数のアセットをエクスポートするには、エクスポートする各アセットの左側にあるチェックボックスを選択します。または、エクスポートするアセットが含まれている各プロジェクトまたはフォルダのチェックボックスを選択します。**【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。

次の図は、選択メニューで複数のアセットが選択されている様子を示しています。



4. **【アセットのエクスポート】** ページで、ジョブ名を変更するか、デフォルトのままにします。
5. アセットの依存オブジェクトを含めるかどうかを選択します。
6. **【エクスポート】** をクリックします。
7. ジョブの進捗状況を確認するには、ナビゲーションバーから **【マイインポート/エクスポートログ】** を選択し、ページの上部にあるメニューから **【エクスポート】** を選択します。ログの名前をクリックして **【ログの詳細】** ページを開きます。
8. エクスポートファイルをダウンロードするには、**【マイインポート/エクスポートログ】** ページのエクスポートジョブの横にある **【ダウンロード】** をクリックします。

アセットのインポート

エクスポートファイル内のすべてのアセットをインポートしたり、インポートするアセットを選択したりできます。

アセットをインポートする場合、次の情報を指定します。

- インポートするエクスポートファイルのアセットと、それらのインポート先のプロジェクト。
- 名前が競合している場合、ターゲットプロジェクトのアセットをエクスポートファイルのアセットで上書きするか。
- アセットのインポート時にアセットをパブリッシュするかどうか。

アセットをインポートするには、次の権限が必要です。

- ユーザーロールにアセットをインポートする権限が必要です。
- アセットを新しいアセットとしてターゲットプロジェクトにインポートする場合、アセットの作成、更新および読み取り権限が必要です。
- ターゲットプロジェクトのアセットを上書きする場合、アセットの更新および読み取り権限が必要です。

注: ターゲットプロジェクトでソースが管理されているアセットを上書きするには、そのアセットをチェックアウトする必要があります。

ターゲット組織は、インポートするアセットに必要なすべてのライセンスを保有している必要があります。

【アセットのインポート】 ページには、エクスポートファイル内のアセットが一覧表示されます。インポートするアセットを選択し、アセットをインポートするプロジェクトを指定します。デフォルトのプロジェクト（ソースプロジェクトと同じプロジェクト名）を受け入れるか、別のプロジェクトを選択できます。プロジェクトがターゲット組織に存在しない場合、Informatica Intelligent Cloud Services によって作成されます。

アセットはインポートするときにパブリッシュできます。

アセットのインポート

アセットのインポートは、Informatica Intelligent Cloud Services エクスポートファイルから行います。

1. ターゲット組織へのログイン
2. **【エクスプローラ】** ページで、**【すべてのプロジェクト】** に移動し、**【インポート】** をクリックします。
3. **【アセットのインポート】** ページでエクスポートファイルに移動して **【開く】** をクリックするか、Windows の **【ダウンロード】** フォルダから zip ファイルをドラッグします。
【アセットのインポート】 ページにはファイル内のアセットが一覧表示されます。
4. 必要に応じて、インポートジョブ名を変更します。
5. 既存のアセットをインポートのアセットで上書きするかどうかを選択します。
 - 既存のアセットを上書きするよう選択すると、アセットがターゲットプロジェクト内のアセットと同じ名前だった場合、そのアセットによってターゲットプロジェクト内の既存のアセットが置き換えられます。
 - このオプションを選択しないと、同じ名前のアセットがターゲットプロジェクト内に存在する場合、アセットはインポートされません。
6. インポートするアセットを選択します。
エクスポートファイルにプロジェクトが含まれ、プロジェクト全体をインポートする場合、すべてのアセットを選択します。Informatica Intelligent Cloud Services は、ターゲット組織にプロジェクトを作成します。
7. ターゲットプロジェクトを選択するか、デフォルトを受け入れます。
8. アセットをインポートするときにパブリッシュする場合は、**【インポート後にアプリケーション統合アセットをパブリッシュ】** を選択します。
9. **【テスト】** をクリックして、インポートの潜在的な結果を確認します。
【アセットの選択】 領域で、各アセットのステータスには、ファイルのインポート時にサービスが実行するアクションが表示されます。
10. 必要に応じて、選択を修正して、テスト結果の問題を解決します。
11. **【インポート】** をクリックします。
【マイインポート/エクスポートログ】 ページの **【インポート】** タブでインポートの進行状況を確認できます。インポート処理が完了すると、**【通知】** にメッセージが表示されます。メッセージ内のリンクをクリックして **【ログの詳細】** ページを開き、インポートの結果を確認します。

インポート対象アセットのパブリッシュ

【インポート後にアプリケーション統合アセットをパブリッシュする】オプションを使用すると、アプリケーションの統合アセットをインポートする際にそれらのほとんどをパブリッシュできます。

インポートファイルには、アセットがソース組織で Secure Agent にパブリッシュされていたか、クラウドサーバーにパブリッシュされていたかを示す情報が含まれます。

ソース組織で Secure Agent にパブリッシュされていたアセットがインポートファイルに含まれている場合、Informatica Intelligent Cloud Services は、アセットをターゲット組織内の同じ Secure Agent にデプロイします。ターゲット組織が同じ Secure Agent にリンクされていない場合、パブリッシュは失敗してエラーが表示されます。

ソース組織でクラウドサーバーにパブリッシュされていたアセットがインポートファイルに含まれている場合、Informatica Intelligent Cloud Services は、アセットをクラウドサーバーにパブリッシュします。

資格情報を必要とする接続やサービスコネクタをパブリッシュするには、まず、資格情報を入力し、次に【参照】ページからアセットをパブリッシュします。【インポート後にアプリケーション統合アセットをパブリッシュする】オプションを使用する場合は、エクスポートファイルにパスワードが含まれていないためにエラーが表示されます。

インポート後のタスク

移行プロセスを完了するには、インポートしたアセットタイプに基づいて特定のタスクを実行する必要があります。

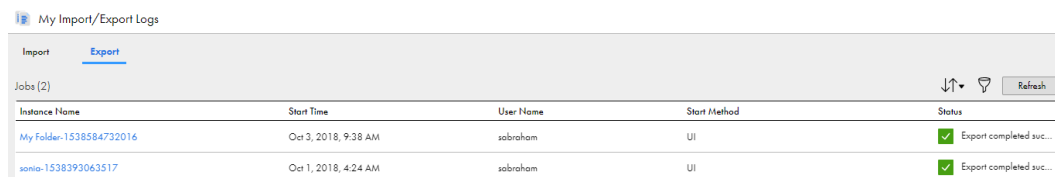
アセットのインポート後、次のタスクを実行します。

- 必要な場合は、プロセススケジュールを再作成します。Informatica Intelligent Cloud Services のインポートにはスケジュール情報は含まれません。
- 接続パスワードとセキュリティトークンを設定します。セキュリティ上の理由から、Informatica Intelligent Cloud Services にはインポートの接続パスワードとセキュリティトークンが含まれていません。

インポートログおよびエクスポートログの表示

インポートインスタンスまたはエクスポートインスタンスのプロパティを表示するには、【マイインポート/エクスポートログ】ページの上部にある【インポート】または【エクスポート】タブをクリックします。デフォルトでは、このページには過去 30 日間に開始されたインポートインスタンスおよびエクスポートインスタンスが一覧表示されます。

次の図は、【マイインポート/エクスポートログ】ページの【エクスポート】タブを示します。



Instance Name	Start Time	User Name	Start Method	Status
My Folder-1538584732016	Oct 3, 2018, 9:38 AM	sabraham	UI	Export completed suc...
sonia-1538393063517	Oct 1, 2018, 4:24 AM	sabraham	UI	Export completed suc...

インポートジョブまたはエクスポートジョブに関する詳細情報を表示するには、インスタンス名をクリックします。



次の図は、エクスポートジョブの詳細を示します。

My Folder-1538584732016

Properties

Name:	My Folder-1538584732016	Started By:	sabrakham
Type:	Export	Start Method:	UI
Start Time:	Oct 3, 2018, 9:38 AM	Status:	<div><div></div>Export completed successfully</div>
End Time:	Oct 3, 2018, 9:38 AM	Export File:	My Folder-1538584732016.zip

Exported Assets (2)

Name	Type	Source Location	Description	Status
 GoogleApigee...	Connection	My Folder\connections		<div><div></div></div>
 Guide1	Guide	My Folder		<div><div></div></div>

インポートジョブおよびエクスポートジョブに関する詳細は、モニタサービスの **【インポート/エクスポートログ】** ページからも表示できます。

【マイインポート/エクスポートログ】 ページに表示できるプロパティの詳細については、監視のヘルプでインポートとエクスポートの監視について説明するセクションを参照してください。

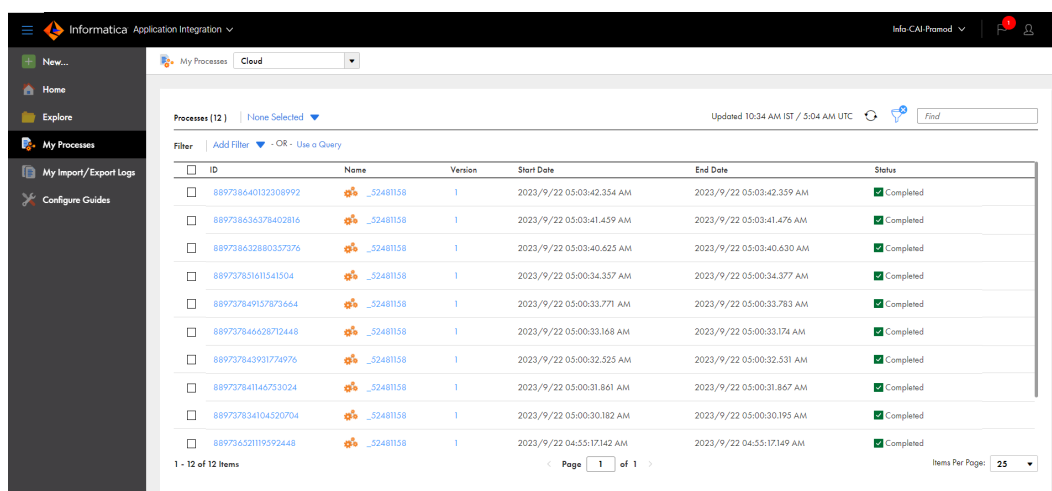
第 4 章

自分のプロセス

【自分のプロセス】ページには、現在ログインしているユーザーによって呼び出されたすべてのプロセスが一覧表示されます。【自分のプロセス】ページを開くには、アプリケーションの統合で、左側のナビゲーションバーから【自分のプロセス】を選択します。

【自分のプロセス】ページには、実行中または実行済みのプロセスインスタンスのリストとともに、プロセスのバージョンが表示されます。状態は、[実行中]、[一時停止]、[完了]、または[フォールト]です。

次の図に、【自分のプロセス】ページの例を示します。



ID	Name	Version	Start Date	End Date	Status
889738640132308992	_S248H158	1	2023/9/22 05:03:42.354 AM	2023/9/22 05:03:42.359 AM	Completed
889738636378402816	_S248H158	1	2023/9/22 05:03:41.459 AM	2023/9/22 05:03:41.475 AM	Completed
889738632880357376	_S248H158	1	2023/9/22 05:03:40.625 AM	2023/9/22 05:03:40.630 AM	Completed
88973783611541504	_S248H158	1	2023/9/22 05:00:34.357 AM	2023/9/22 05:00:34.377 AM	Completed
889737849157873664	_S248H158	1	2023/9/22 05:00:33.771 AM	2023/9/22 05:00:33.783 AM	Completed
88973784642672448	_S248H158	1	2023/9/22 05:00:33.168 AM	2023/9/22 05:00:33.174 AM	Completed
88973784393174976	_S248H158	1	2023/9/22 05:00:32.525 AM	2023/9/22 05:00:32.531 AM	Completed
88973784146753024	_S248H158	1	2023/9/22 05:00:31.861 AM	2023/9/22 05:00:31.867 AM	Completed
889737834104520704	_S248H158	1	2023/9/22 05:00:30.182 AM	2023/9/22 05:00:30.195 AM	Completed
88973652119592448	_S248H158	1	2023/9/22 04:55:17.142 AM	2023/9/22 04:55:17.149 AM	Completed

【自分のプロセス】ページは、アプリケーション統合コンソールの【プロセス】ページのサブセットです。【自分のプロセス】ページでは、現在ログインしているユーザーによって呼び出されたプロセスのみが表示されます。アプリケーション統合コンソールの【プロセス】ページには、組織内のすべてのユーザーによって呼び出されたプロセスが表示されます。

【自分のプロセス】ページからは、次のページにアクセスできます。
プロセスビューの詳細

プロセス ID をクリックすると、【プロセスビューの詳細】ページが表示されます。プロセスアクティビティの時系列リスト、デザイナに表示される状態のプロセス、詳細なステップ情報などを参照できます。【アクティブなプロセスの詳細】ページにアクセスすることもできます。

プロセスバージョンのリスト

プロセス名をクリックすると、【プロセスバージョンのリスト】ページが表示されます。ターゲット名前空間、バージョン名、バージョン番号、プラン ID、オンラインの日付、オフラインの日付、デプロイされた日付などを参照できます。

デプロイされたプロセスバージョンの詳細

プロセスのバージョン番号をクリックすると、**【デプロイされたプロセスバージョンの詳細】** ページが表示されます。プロセスバージョンのライフサイクルの確認、プロセスバージョンの更新、および自分のロールとパートナーロールの詳細の確認ができます。

【開始日】 フィールドと **【終了日】** フィールドは協定世界時（UTC）を使用します。

簡易フィルタや詳細フィルタを適用することで、監視と分析が必要なプロセスを表示できます。

詳細については、アプリケーション統合コンソールのヘルプの**監視**を参照してください。

索引

A

Azure DevOps ユーザー資格情報 [22](#)

G

GitHub ユーザー資格情報 [22](#)

あ

アセット

- インポート [33, 34](#)
- エクスポート [30, 32](#)
- コピー [9](#)
- ソース管理 [20](#)
- タグ [13](#)
- タグの割り当て [14](#)
- タグの作成 [13](#)
- 移動 [10](#)
- 削除 [12](#)
- 組織間の移行 [30](#)
- 名前の変更 [11](#)

アセットのインポート

概要 [30](#)

アセットのエクスポート

概要 [30](#)

い

インポート

- アセット [33](#)
- プロジェクト [33](#)
- 移行後のタスク [35](#)
- 接続 [33](#)
- 名前の競合 [33](#)

インポート アセット [34](#)

え

エクスポート

- アセット [30, 32](#)
- エクスポートファイル [31](#)
- プロジェクト [32](#)

お

オブジェクトの移行 [30](#)

こ

コピー

- アセット [9](#)
- フォルダ [9](#)
- プロジェクト [9](#)

す

スケジュール設定

- タスクとタスクフローのコピー [9](#)

そ

ソース管理

- [エクスプローラ] ページのカラム [27](#)

Git コマンド [21](#)

アクション [20](#)

オブジェクトのチェックアウト [24](#)

オブジェクトのチェックイン [25](#)

オブジェクトのチェックインとチェックアウト [24](#)

オブジェクトのプル [22](#)

オブジェクトのリンク解除 [26](#)

オブジェクトの削除 [25](#)

サポートされているオブジェクト [20](#)

サポートされているソース管理システム [20](#)

チェックアウトの取り消し [26](#)

プロジェクトとフォルダのプル [23](#)

ベストプラクティス [28](#)

リポジトリからのオブジェクトのプル [23](#)

リポジトリのバージョンで組織を更新 [22](#)

リポジトリへのアクセスの設定 [22](#)

以前のバージョンに戻す [25](#)

複数のオブジェクトの選択 [27](#)

た

タグ

プロパティ [15](#)

割り当て [14](#)

作成 [13](#)

削除 [15](#)

編集 [15](#)

タスク

削除 [12](#)

ふ

フォルダ

インポート [34](#)

コピー [9](#)

移動 [10](#)

フォルダ (続く)

削除 [12](#)

プロジェクト

インポート [33](#), [34](#)

プロジェクト (続く)

エクスポート [32](#)

コピー [9](#)

削除 [12](#)